

★ ピアネット・マンスリーの発行について

ピアネット・マンスリーは各団体の活動状況に合わせて定期的に発行していきます。《ピアネット運営事務局》

ピアネット運営委員会

「2018年度第1回ピアネット学生スタッフ合同研修会」を実施しました

8月6日(月)、市ヶ谷キャンパス 富士見ゲート5階 S501 教室にて、「2018年度第1回ピアネット学生スタッフ合同研修会」を開催し、本学学生と教職員を合わせて71名(学生55名、教職員16名)が参加しました。

ピアネットでは、学生スタッフに対して毎年1~2回の合同研修会を開催し、学生スタッフ間はもちろん、学生スタッフを抱える部局の教職員間の連携、情報共有を行っています。今回は、課外教養プログラムプロジェクト(KYOPRO)スタッフ、VSP、チームオレンジ、ライブラリーサポーター、グローバルデイ実行委員、JLP学生スタッフ、(小金井)オープンキャンパス学生スタッフ、学生FDスタッフ、学習ステーション学生スタッフの計9団体が研修に参加しました。本研修会では、第1部に本学教育支援本部の平山喜雄統括本部長による講演、第2部に本学文学部心理学科の荒井弘和教授による講演・グループワーク、第3部に情報交換会を行いました。第1部では、平山統括本部長から「ピアネット、ピアサポートとは」をテーマにご講演いただき、本学におけるピアネット活動のはじまりやこれまでの活動について振り返りました。実際に各団体に活動していても、スタッフ自身がピアネットの一員であることを意識することは難しい中、自分たちの活動の意義や役割、目的等を再確認する良いきっかけとなりました。第2部では、荒井教授から「チームビルディング講座」と題して、グループワークに必要となる基礎知識等について講演を受けた後、それらを踏まえたうえで実際にグループワークを行いました。短時間ではありましたが、普段関わることのないメンバーとの議論は、お互いに良い刺激となったようです。第3部の情報交換会では、団体の垣根を超えて、ざっくばらんにピアネット活動について話すことができ、互いの活動について理解を深める良い機会となりました。会の途中では、各団体の代表者から今後の抱負が語られ、互いに士気を高め合っていました。この交流をきっかけに、新しいアイデアや取り組みが生まれることにも期待したいです。参加した学生スタッフからは、「ピアネットの歴史や役割を知ることができ良かった」「他団体のスタッフと交流することができ良かった」「他団体のスタッフから様々な刺激を受けたので、今後の活動に活かしていきたい」等の声が寄せられました。今後も各団体における活動をはじめ、ピアネット全体としての活動も積極的に展開していきます。



開会挨拶をされるピアネット運営委員長
児美川 孝一郎教授



講演をされる平山喜雄 教育支援統括本部長



講演をされる荒井弘和 教授



集合写真

課外教養プログラム(学生センター)

「3キャンパスバスツアー」を実施しました!

8月10日(金)、課外教養プログラム「3キャンパスバスツアー」を実施しました。このプログラムは、参加者に法政大学について知ってもらい、今後の学生生活に期待を持ってもらうことや、学部・所属キャンパスを超えた学生間の交流を目的としました。普段多摩キャンパス内を循環する大学のバスを利用し、法政大学の3キャンパスを1日で巡るこのツアーは、昨年度初めて実施し、多くの方から好評であったため、今年度も実施に至りました。当日は、市ヶ谷キャンパスに集合し、本学文学部教授の小林ふみ子先生より、法政大学の歴史に関する講義を行っていただきました。参加者にとって、普段なかなか聞く機会のない法政大学のことについて知る貴重な機会になったと思います。その後、市ヶ谷キャンパスについて知ってもらうため、場所探しゲームを行いました。これは、「元々は女子校だった校舎」等様々なヒントを元に該当する場所を見つけてくるゲームです。

市ヶ谷キャンパス所属の学生でも普段行かない場所があり、参加者全員にキャンパスに興味を持ってもらうことができました。その後、多摩キャンパスへ移動し、昼食のバーベキューを行い、キャンパス内でバーベキューができるという魅力を存分に味わってもらいました。

昼食後は、バス内で多摩キャンパスの解説をし、小金井キャンパスへ向かいました。小金井キャンパスでは、本学登録団体「Libertyer」サポートのもと、科学実験を行いました。コイルと電池を使った「世界一簡単な電車」を2人組で作ることで、参加者同士の交流が活発に行われ、リニアモーターカーの仕組みを学ぶことができました。

プログラム終了後、参加者からは「他のキャンパスに初めて行くことができた」「他のキャンパスの学生と交流できて楽しかった」という声をいただきました。

法政大学には、歴史や建造物はもちろんですが、教授や学生など魅力ある素晴らしい方々が多くいます。本プログラムを通して、モノだけでなく、法政大学の様々なヒトとの出会いを得ることができたのではないのでしょうか。私たち課外教養プログラムプロジェクト(KYOPRO)では、今後も正課授業では得られない価値を持ったプログラムを実施していきます。



小林教授による講義中の様子(市ヶ谷キャンパス)



実験中の様子(小金井キャンパス)



バーベキューを楽しむ参加学生(多摩キャンパス)



ボランティアセンター

【東京 2020 応援プログラム】～電通育英会助成事業～「東北被災地支援ボランティアツアー」を実施しました

8月20日(月)～8月27日(月)、ボランティアセンターでは、岩手県遠野市を拠点にし、陸前高田市、大槌町、釜石市で通算34～37次となる「東北被災地ボランティアツアー」を実施し、総勢36名の学生が参加しました。このプログラムは、ボランティア活動を通してメディアでは伝えきれていない被災地の現状や、少子高齢化などの地方自治体が抱える問題を学生たちに体感してもらい、今後の復興支援の在り方や、地方自治体の活性化について考えるきっかけを提供することを目的に実施しています。

現地では、認定NPO法人遠野山里暮らしネットワークのコーディネートの下、公営住宅での岩手弁かるた大会やポッチャ体験会、薪割り、避難道の整備、幼稚園やネギ畑の草むしりなどの様々なボランティア活動を実施するとともに、奇跡の一本松などの震災遺構の見学会を実施しました。また、本プログラムはボランティアセンター学生スタッフであるチーム・オレンジが中心となり、参加者のためにボランティアの内容や注意事項について説明する事前研修会を実施し、帰着後にはこのプログラムで得られた成果を各々が発表する報告会を実施しました。

また、彼らは、法政大学の被災地支援の取り組みをまとめた「チーオレ新聞」を作成し、ボランティア先に配布したり、現地NPO法人とミーティングを重ね交流会やボランティアの内容を検討したりするなどして、大学の被災地支援の取り組みの活性化に大きく貢献してくれました。今後もボランティアセンターでは学生と協働し被災地支援を実施していきます。



被災当時のお話を語り部さんから聞く



公営住宅の方々と集合写真



市ヶ谷



小金井



オープンキャンパススタッフ

2018年度のオープンキャンパスが終了しました！

8月25日(土)の多摩・小金井オープンキャンパスをもって、2018年度のオープンキャンパスが終了し、合計で42,000人の高校生・保護者の皆さまにご来場いただきました。来場者の満足を第一に、学生達が各企画の創意工夫を重ねて準備してきた成果を、オープンキャンパスの舞台で発揮しました。



市ヶ谷



学習ステーション

「常駐アシスタントプログラム」を実施しました。

常駐アシスタントプログラムが9月24日(月)より学習ステーション(富士見坂校舎2階)で始まりました。

課題を抱える企業を対象に課題解決の方法を考えるプログラム、「少子高齢化について」「愛かお金か」など毎週異なるテーマでディスカッションするプログラムなどを行っています。引き続き12月21日(金)まで行う予定です(平日に限る)。



プログラムの様子



◆編集後記◆

暑い夏が終わりました。今年の夏を振り返ってみて、みなさんはどのように思いますか。私は楽しい思い出もたくさんできましたが、それよりも“天災の怖さを実感した夏”だったなと思います。同様な印象を受けた方も多くいるのではないのでしょうか。熱帯低気圧に伴う強風や豪雨、またその影響による土砂崩れなどの被害は今後ますます増えることが見込まれる中、注目されているのは「防災」です。防災対策にはこれで大丈夫という基準はありませんが、一番大切なのは一人一人の防災に取り組む姿勢ではないのでしょうか。天災は他人事と捉え、備えを疎かにしがちですが今回の出来事を機に、ぜひ、「防災」に向き合ってみてはいかがでしょうか。ピアノット・マンスリーについてのご感想をお待ちしています。

<<事務局：堀越>>